

111 古典歌謡への旅

[会場] 市民学習センター(市民プラザ北側)4階 講義室2
[時間] 13:30~15:30 / [定員] 25名

回	月・日	曜	学 習 題	講 師
1	5・14	火	りょうじん ひししょう 梁塵秘抄から(1)	富山工業高等専門学校 元教授 武部弥十武
2	5・28	火	梁塵秘抄から(2)	
3	6・11	火	梁塵秘抄から(3)	
4	6・25	火	梁塵秘抄から(4)	
5	7・9	火	梁塵秘抄から(5)	
6	9・10	火	閑吟集から(1)	
7	9・24	火	閑吟集から(2)	
8	10・8	火	閑吟集から(3)	
9	10・22	火	閑吟集から(4)	
10	11・12	火	閑吟集から(5)	

*テキストは、各自購入してください。植木朝子編『梁塵秘抄』(角川ソフィア文庫)704円(税込)
真鍋昌弘校注『閑吟集』(岩波文庫)1,320円(税込)

<空きなし・キャンセル分のみ>

112 おくのほそ道をよむ

[会場] 市民学習センター(市民プラザ北側)4階 講義室2
[時間] 9:30~11:30 / [定員] 25名

回	月・日	曜	学 習 題	講 師
1	5・15	水	俳諧と芭蕉	富山高等専門学校 名誉教授 高熊哲也
2	5・29	水	序章 草の戸も住替る代ぞひなの家 旅立 行春や鳥啼魚の目は泪	
3	6・19	水	日光 あらたうと青葉若葉の日の光 白川の関 卯の花をかざしに関の晴着かな(曾良)	
4	7・3	水	平泉 夏草や兵どもが夢の跡 卯の花に兼房みゆる白毛かな(曾良) 五月雨の降り残してや光堂	
5	7・17	水	立石寺 閑さや岩にしみ入蟬の声 最上川 五月雨をあつめて早し最上川	
6	9・4	水	象潟 象潟や雨に西施がねぶの花	
7	9・18	水	一(市)振 一家に遊女もねたり萩と月	
8	10・2	水	那古の浦 わせの香や分入右は有磯海 金沢 塚も動け我泣声は秋の風	
9	10・16	水	小松 むざんやな甲の下のきりぎりす 那谷 石山の石より白し秋の風 山中 山中や菊はたおらぬ湯の匂	
10	11・6	水	大垣 蛤のふたみにわかれ行秋ぞ	

*参考図書(必要な方は購読してください。)'おくのほそ道 芭蕉が歩いた北陸'(北國新聞社)1,760円(税込)